

平成24年度
門司税関・北九州市
行政懇話会

平成24年12月14日
北九州市

~~~~~目次~~~~~

○港湾について … 1

○空港について … 14

北九州港について

- 北九州港の特徴
- 北九州市物流拠点化戦略基本方針



北九州港の貨物量の推移

海上出入貨物量

(トン)

平成23年	平成23年 (1~6月)	平成24年 (1~6月)
99,979,308 対前年比 101.1%	48,310,897	48,375,376

コンテナ貨物取扱量

(TEU)

平成23年	平成23年 (1~6月)	平成24年 (1~6月)
512,033 対前年比 106.6%	246,196	243,657

日本の主要7港の取扱貨物量

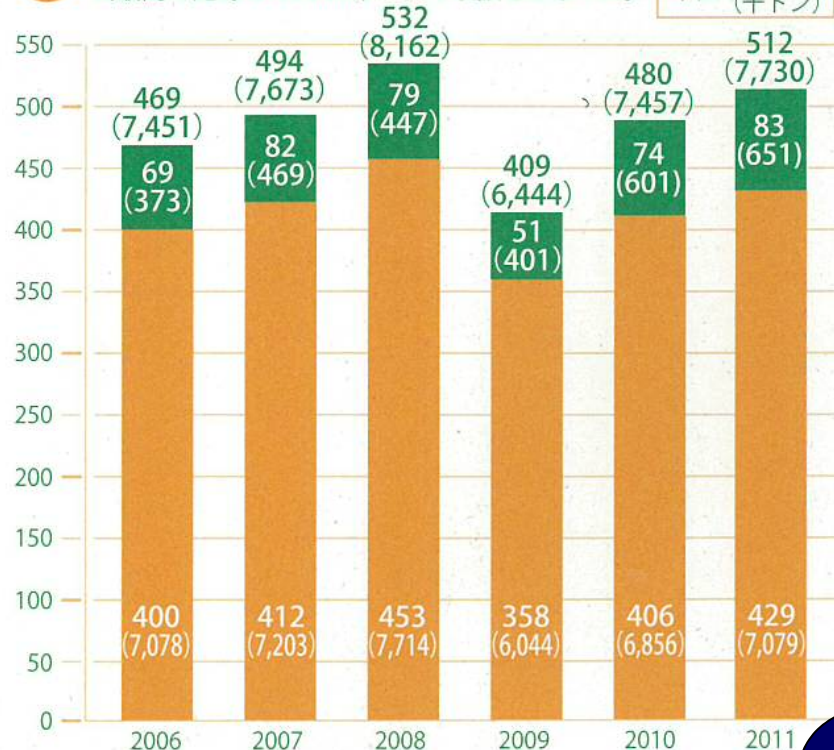
国内フェリー・RORO 航路の一大拠点であることから、内国貿易の割合が他港に比べ大きくなっている。



コンテナ貨物取扱量

2011年は、昨年に引き続いて取扱量が増加し、過去最高を記録した2008年に次ぐ取扱量となった。

外国貿易
内国貿易
単位：千TEU



物流の貢献度

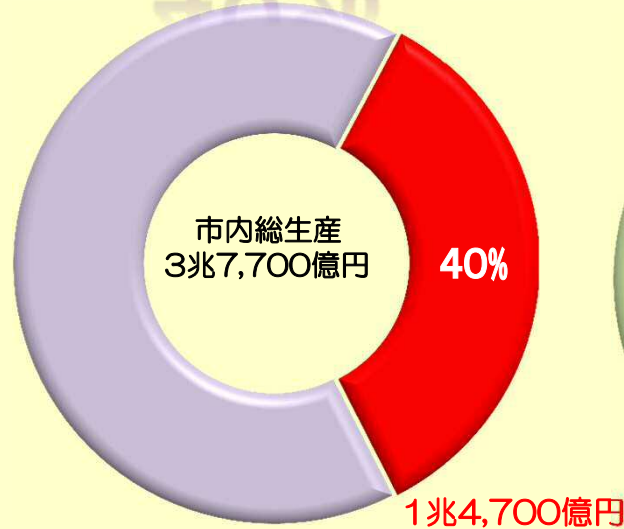
北九州市経済に占めるウエイト

- 物流関連産業と港湾利用製造業を合わせた生産額（粗付加価値額）は、市内総生産の約40%に達する
- 雇用者所得は、市内雇用者報酬の約35%を占める。



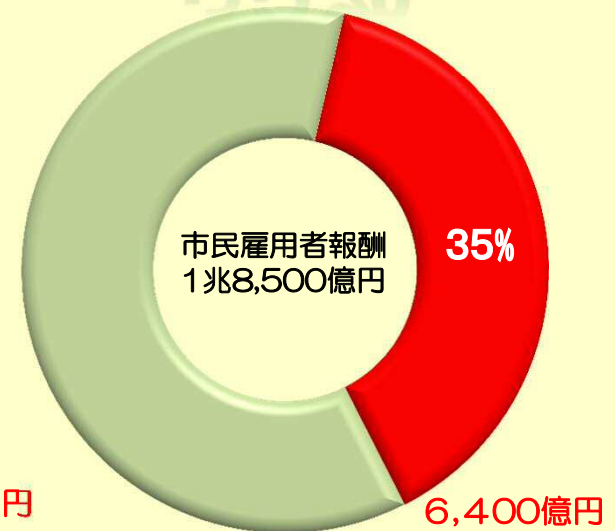
市内総生産の

40%



市民雇用者報酬の

35%



港湾利用製造業：原材料調達や製品出荷などにおいて港湾利用度の高い製造業

市内総生産：原材料などの中間投入額を差し引いた、市内の生産活動によって新たに生み出された価値の1年間の総額

粗付加価値額：各産業部門の生産活動によって新たに付加された価値で、家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、間接税及び補助金から構成される

雇用者所得：生産活動から発生した付加価値のうち労働を提供した雇用者への分配額

出典：北九州市「H17年産業連関表」より算出

「北九州市物流拠点化戦略基本方針」施策体系図

複合物流拠点都市

施策の展開

【集貨】 我が国とアジアを つなぐ結節拠点の形成

- 付加価値の高い
海上輸送サービスの提供
- 空の物流拠点化を目指した
航空輸送体制の確立
- 国内物流を支える
陸上ネットワークの強化
- 安全・安心で高度な物流の継承

【創貨】 物流の活力を生み出す ものづくり拠点の形成

- 新たな時代を牽引する
成長産業の誘致
- 企業進出を後押しする
ソフト施策の深化・充実

【環境】 環境にやさしい 物流・産業拠点の形成

- 環境に配慮した物流体制
の構築

効果

- * 市内外からの貨物の増加
- * 物流関連業者の集積
- * 物流サービスの向上

- * 新規企業の立地、新産業の創出等
- * 生産量の増加
- * 貿易額の増加

- * 温室効果ガス削減

- 雇用の創出
- 低炭素社会の実現

市民生活の向上

【集貨】付加価値の高い海上輸送サービスの提供

国際海上コンテナ

「ダイレクト・アジア」の拡大

■アジアとの近接性、関門海峡に面する特性、既存ストックや既存サービスを活かして、アジア諸国の港と直接結ぶダイレクト航路の拡大を図る。

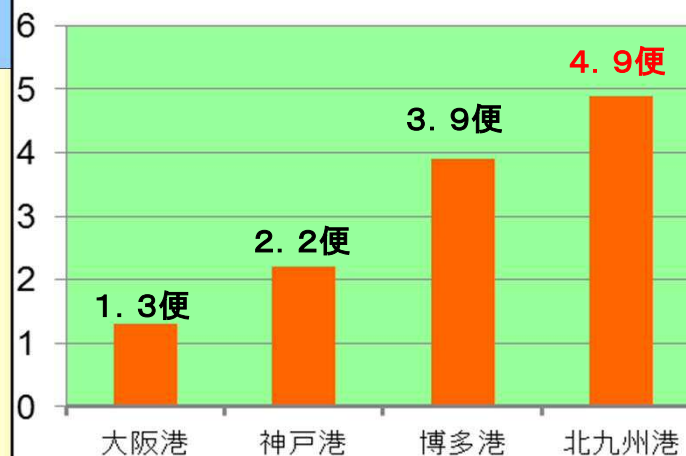
- ①アジア向けコンテナ基幹航路の誘致
- ②シャトル化（輸送時間の短縮）
- ③寄港しやすい条件の設定
- ④通関手続きの迅速化（AEO事業者の集積促進）

我が国のアジアに向けた
ゲートウェイとしての役割を
果たしていく。



取扱貨物量(千TEU)あたりの外航コンテナ便数
(対中国、韓国の輸出入)

(頻度)



【集貨】付加価値の高い海上輸送サービスの提供

国際フェリー・国際RORO船

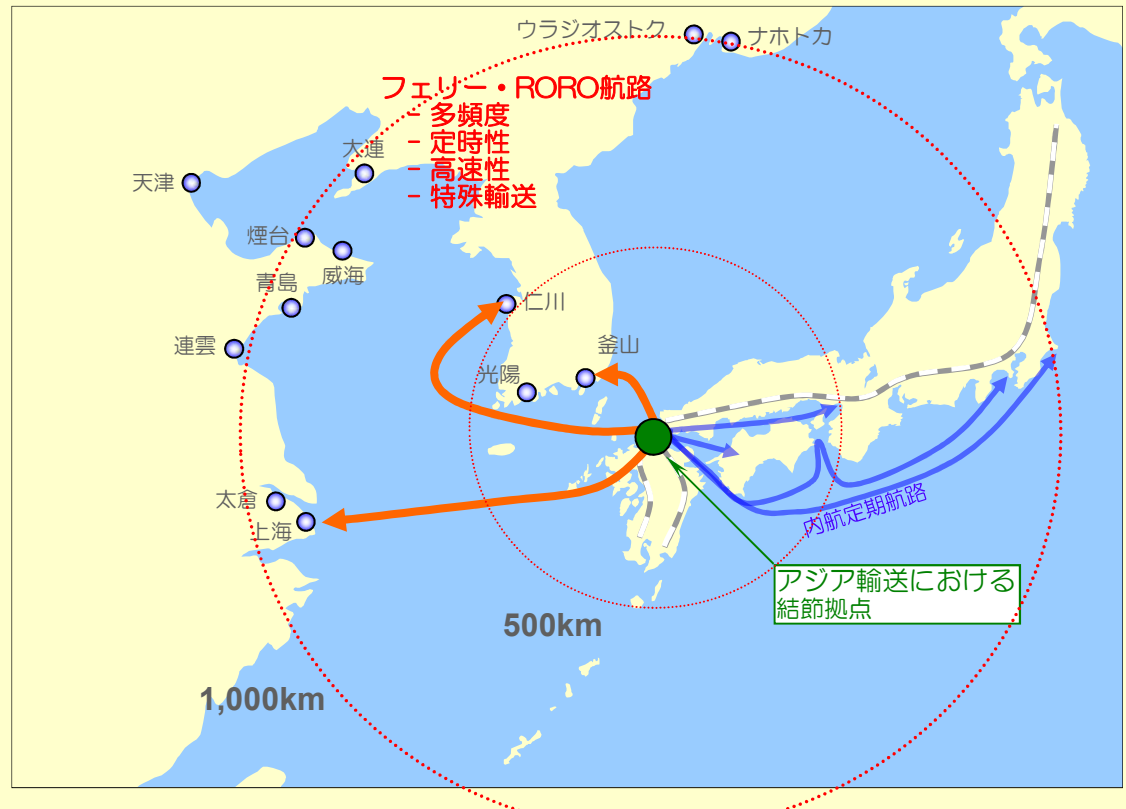
「シームレス・アジア」の実現

■企業ニーズに対応した付加価値の高い輸送サービスの拠点形成を図り、アジア輸送における垣根のないシームレス物流を目指す。

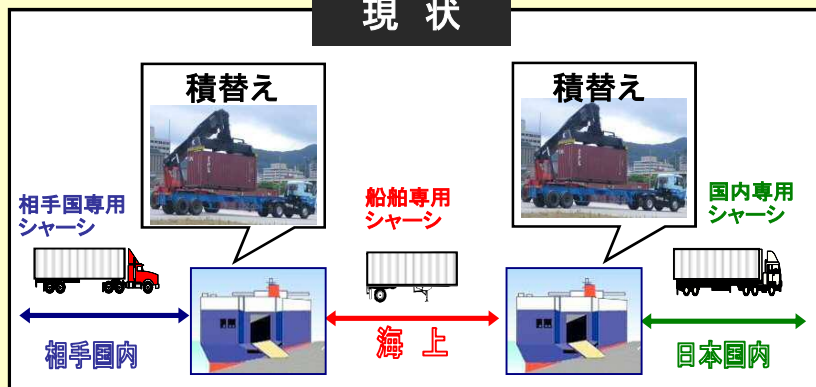
- 多頻度（2都市間のシャトル輸送）
- 定時性（安定した就航率）
- 高速性（急ぐ貨物への対応）
- 特殊輸送（コンテナ規格外の貨物等の輸送）

- ①国際RORO航路の誘致
- ②外国製シャーシ相互乗り入れの実現
- ③シー&シー、シー&レール輸送の推進
- ④通関手続きの迅速化（AEO事業者の集積促進）
寄港しやすい条件の設定など

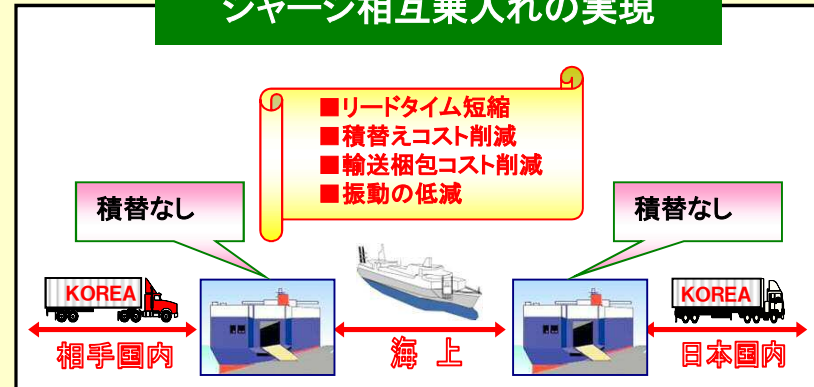
関門地域のみならず、日本全体のアジア物流の最適化に貢献していく。



現状

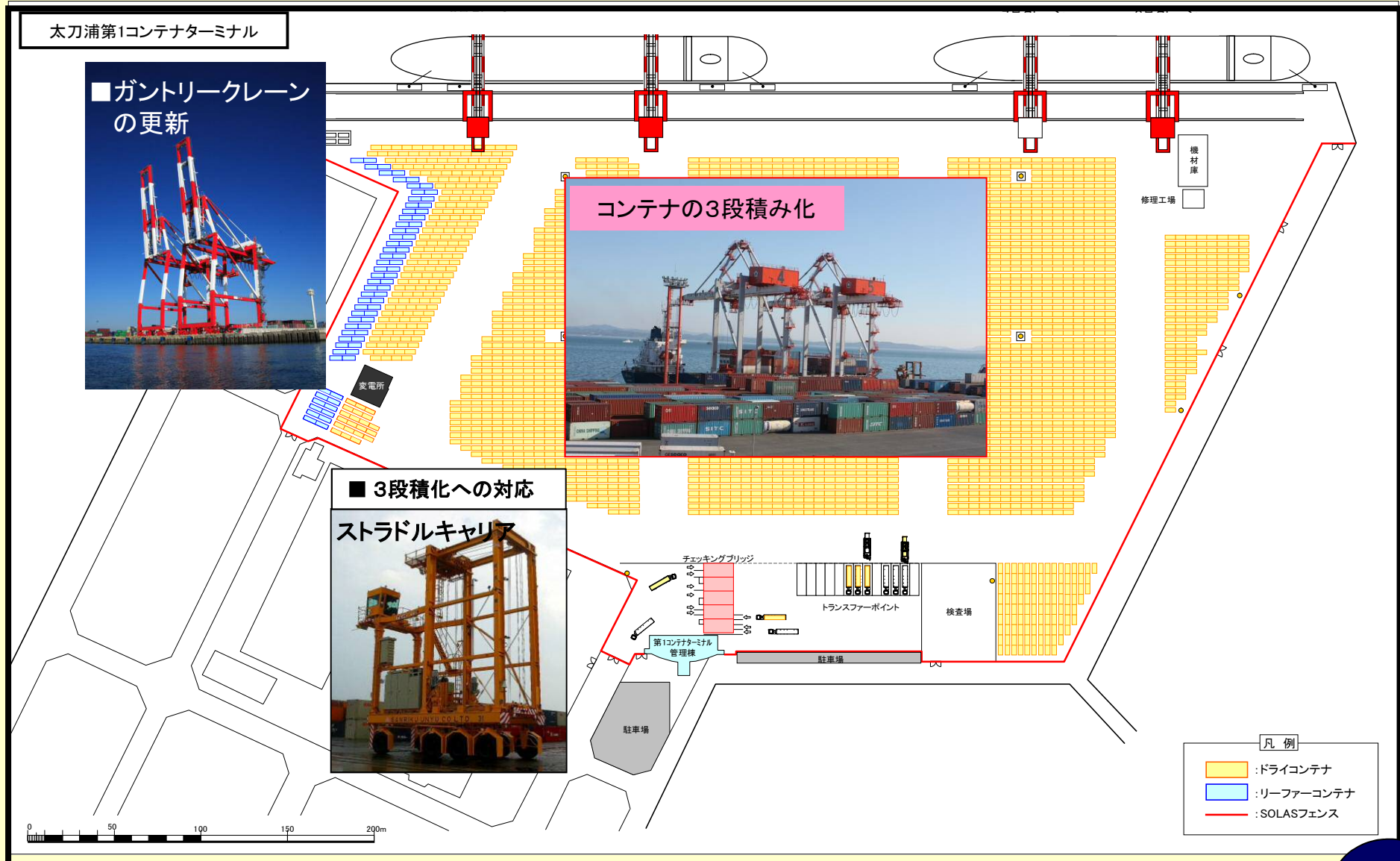


シャーシ相互乗り入れの実現



【集貨】付加価値の高い海上輸送サービスの提供

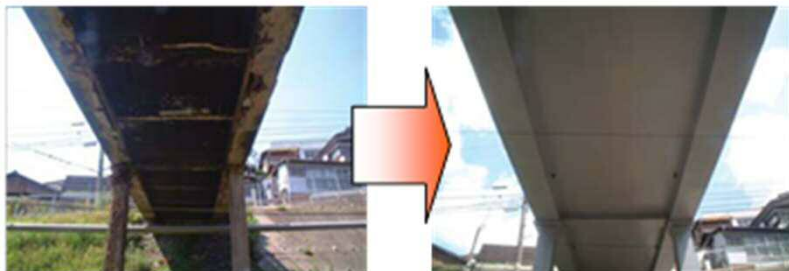
■太刀浦コンテナターミナルの機能強化



【集貨】安全・安心で高度な物流の継承

橋梁などの長寿命化の取組み

橋梁ごとに健全度(健康状態)を評価し、健全度ランクに応じて補修・補強(長寿命化)を計画的に進めます。既に老朽化が進み、抜本的な治療が必要な橋梁については、リニューアル工を実施します。



<リニューアル工事の事例>

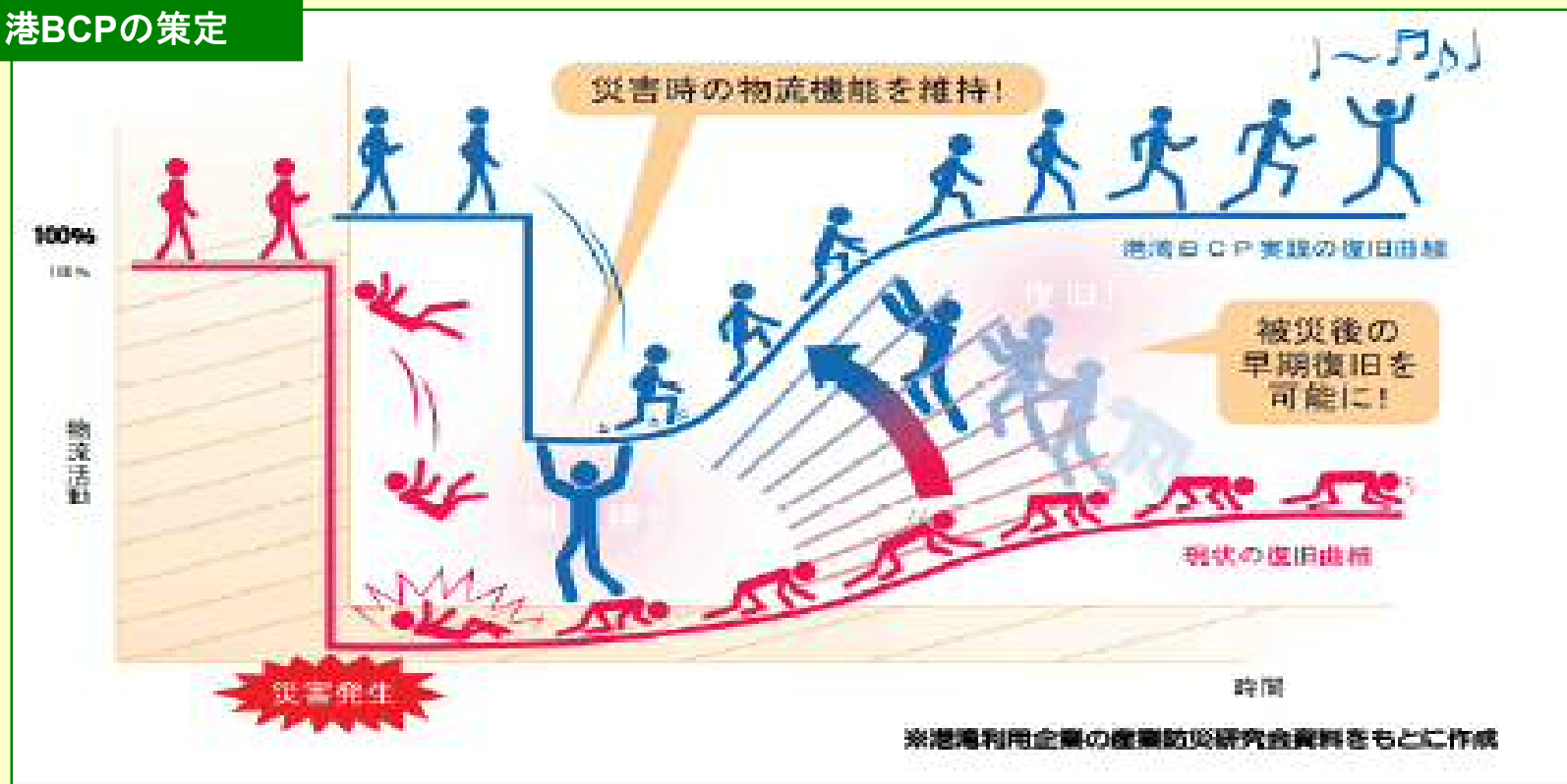
■施設の耐震化

耐震強化岸壁の配置計画

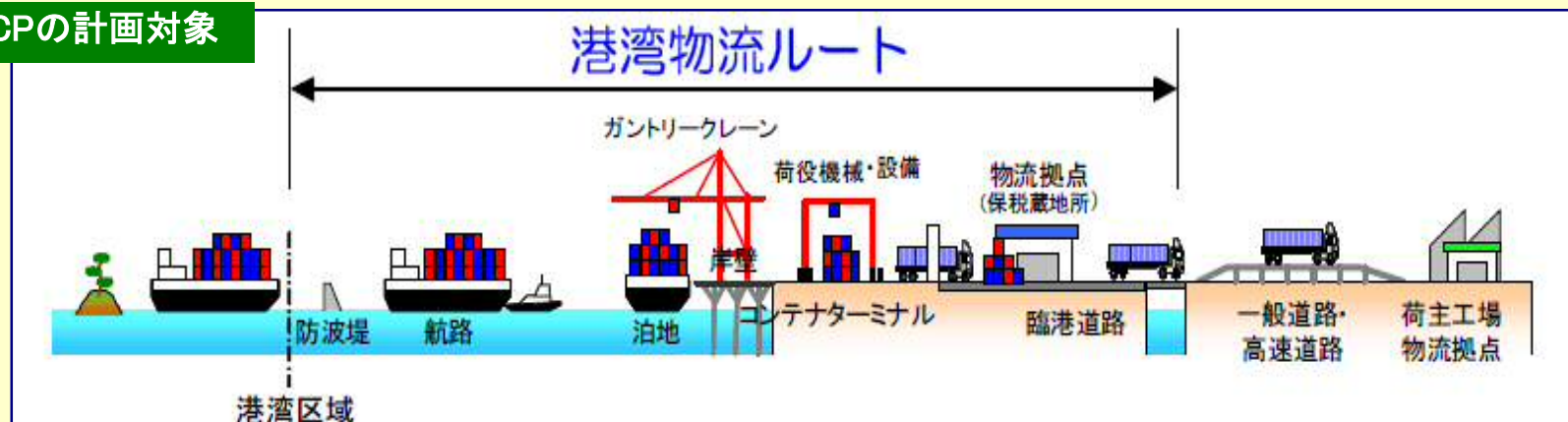


【集貨】安全・安心で高度な物流の継承

■北九州港BCPの策定



■港湾BCPの計画対象



【創貨】新たな時代を牽引する成長産業の誘致

■戦略的に誘致する産業



【創貨】【環境】「グリーンエネルギーポートひびき」構想

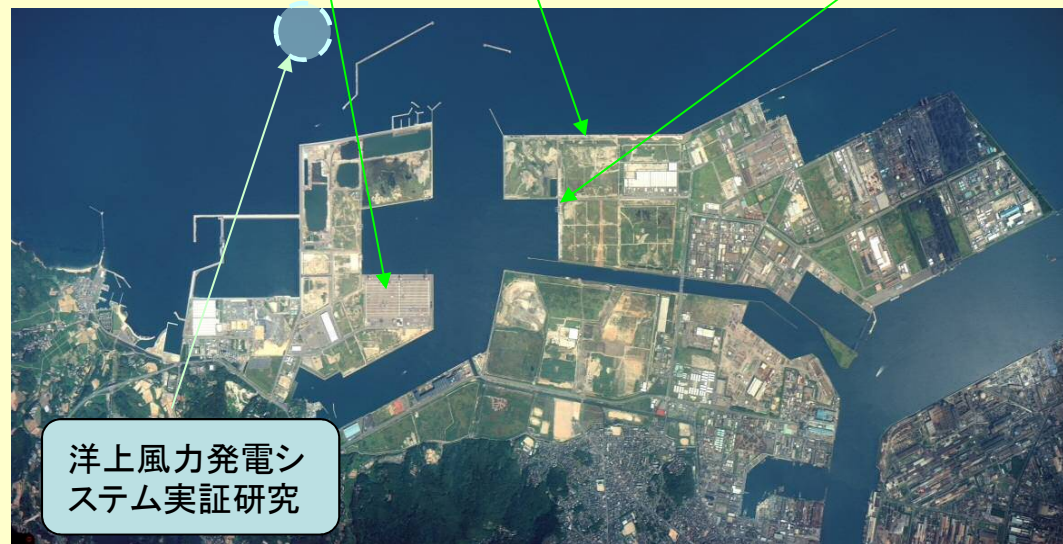
グリーンエネルギーポートひびき構想

響灘地区の立地優位性

- ◆アジアに近接するロケーション
- ◆充実した港湾施設
- ◆港湾施設に隣接した産業団地
- ◆実証実験に適した環境

+

国際戦略総合特区



響灘地区に風力発電産業に必要なものをワンパッケージ

実証研究施設

+

製造・物流
拠点

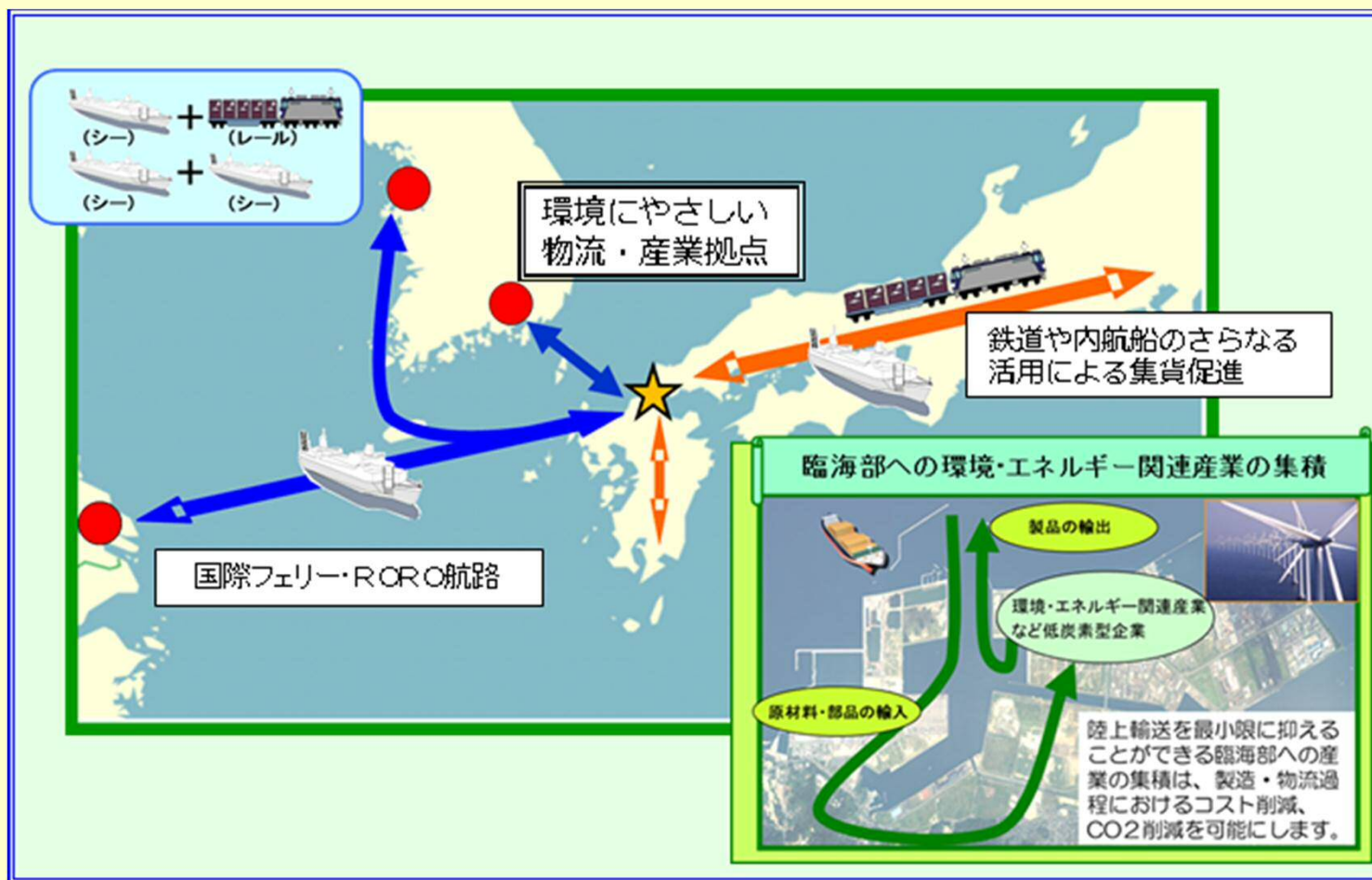
+

メンテナンス

=

風力発電産業
アジア総合拠点

【環境】環境にやさしい物流・産業拠点の形成



低炭素化の観点から

集貨では、

- ①モーダルシフトの促進
- ②物流関連施設における再生可能エネルギーの利用促進

創貨では

- ①低炭素型企業の立地促進
- ②物流基盤に隣接した産業用地への企業誘致

環境未来都市・北九州市が進める物流拠点化は、我が国全体の環境負荷を軽減

● 国際旅客便(釜山便)について

- 国際定期路線の運航・利用状況等
- 国際チャーター便の運航実績

● 国際貨物便について

- 国際貨物便の状況
- 北九州空港の機能拡充
- 北九州空港のめざす姿



旅客定期便の運航状況



航空会社名	行き先	便数
【国内線】		
日本航空	東京（羽田）	5往復／日
スターフライヤー	東京（羽田）	12往復／日
全日空（共同運航）	東京（羽田）	11往復／日
【国際線】		
スターフライヤー	釜山（金海）	2往復／日

KITAKYUSHU 

BUSAN 

北九州⇄釜山定期便運航中!



《運航時刻表》

便名	北九州⇒釜山	便名	釜山⇒北九州
7G 301	09:00発⇒09:50着	7G 302	10:40発⇒11:30着
7G 303	18:25発⇒19:15着	7G 304	20:05発⇒20:55着

<北九州－釜山線>

- ・ 就航時期:平成24年7月12日～
- ・ 航空会社:スターフライヤー
- ・ 便数:1日2往復

1 平成24年度の実績(H24.12.14現在)

- 58便実施
(韓国(仁川・釜山・済州)、台湾(台北)、中国(西安))

2 今後の国際チャーター便の予定

- 北九州ー仁川(12月22日~24日, 12月30日~1月1日)
航空会社: スターフライヤー
- 北九州ー台北(12月29日~1月1日, 2月12日~16日)
航空会社: 復興航空
- 北九州ー済州島(3月22日~24日)
航空会社: スターフライヤー

国際貨物便

日本貨物航空

- 機材: B747貨物機(ジャンボ貨物機: 110t積)
- 定期化に向けてトライアル運航中
- 成田 → 韓国・仁川 → 北九州(定期便の臨時寄航) → 成田
- 成田空港で当日中に
同社の北米、欧州、香港などの別路線に接続
- 今年度8便就航を予定(6月、7月、9月からは6ヵ月連続、直近は12月19日就航予定)
- 利用する荷主や物流会社が着実に増加している(※ 物流会社は1社→10社へ)
- 今後の定期化に向けて誘致活動、集貨活動を強化



〔日本貨物航空〕



国際貨物チャーター便

大韓航空、シンガポール航空、マレーシア航空

- 機材: B747貨物機(ジャンボ貨物機: 110t積)
- 馬(カナダ)、牛(オーストラリア)の輸入
- 一般貨物の輸出(フォワーダーチャーター)
- 今後もおおよそ月1便の頻度を予定(H22: 5便、H23: 7便、H24: 12便を予定)



〔大韓航空〕



〔シンガポール航空〕



〔マレーシア航空〕

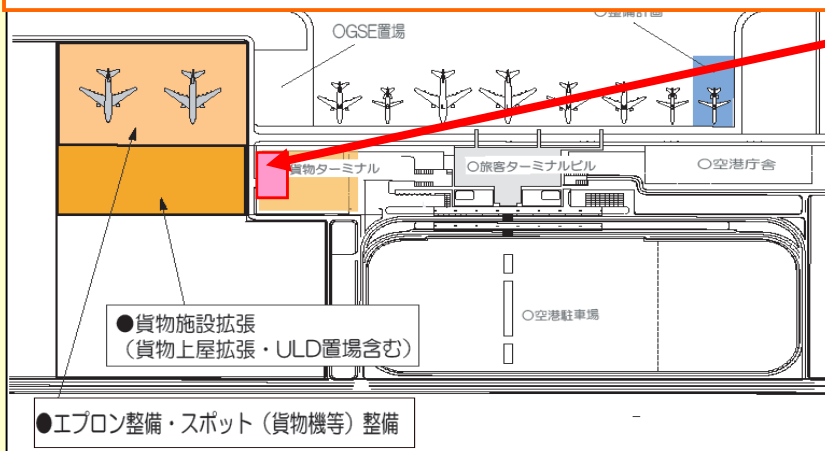
北九州空港の機能拡充

滑走路延伸などによる機能強化



滑走路延伸部分 (500m)

貨物エプロン・貨物地区拡張部分

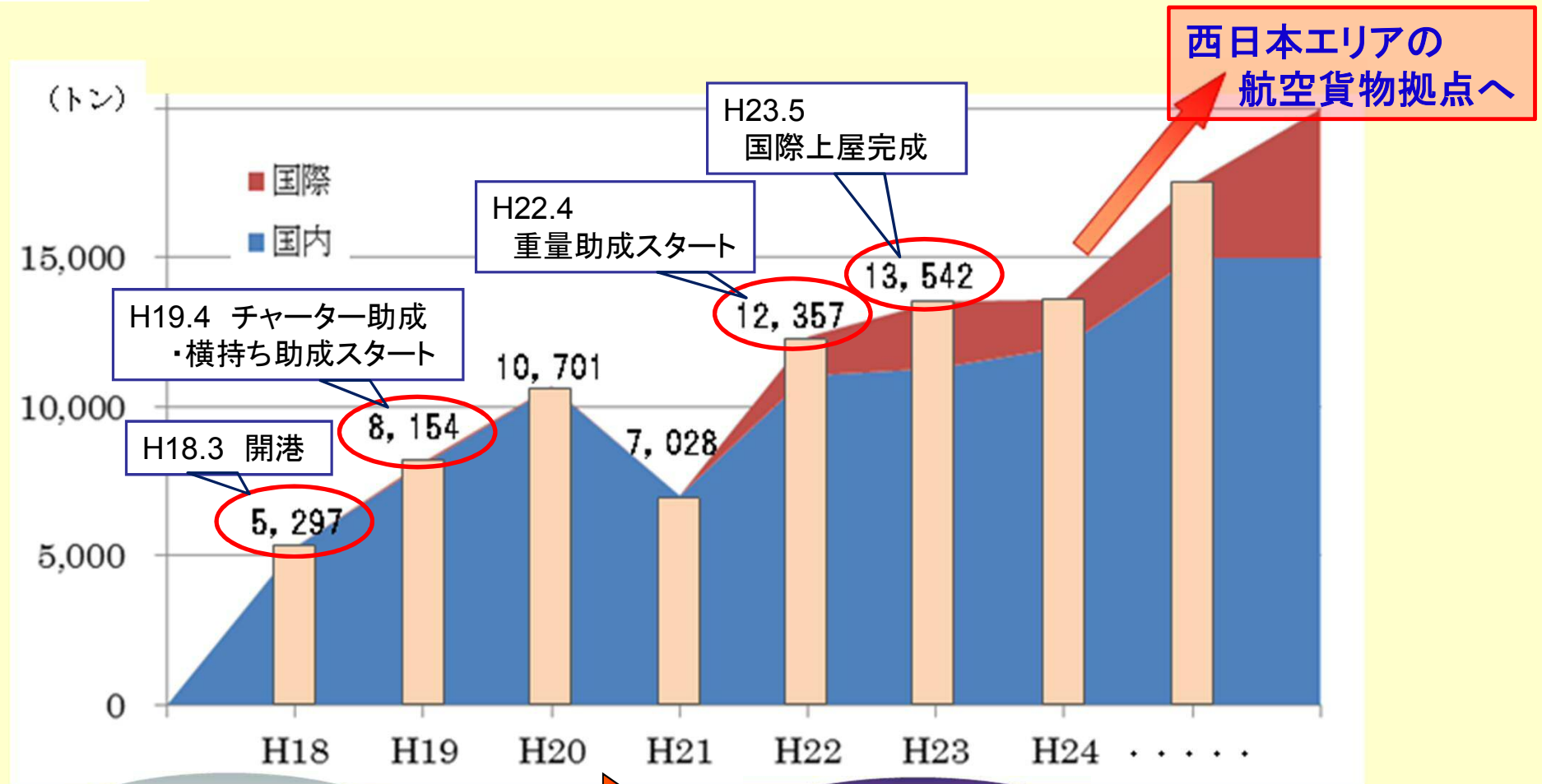


国際貨物上屋

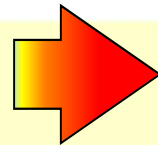
- 平成23年5月完成
- 保税上屋(875㎡)
- カーゴハンドリングシステム
- トラックドックリフター
- 冷凍冷蔵庫(±20℃)



貨物における北九州空港のめざす姿



H24年度



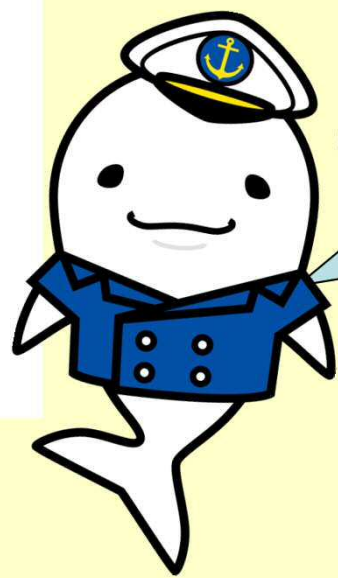
将来像

- ・ 臨時便の定期運航化に向けた支援
- ・ 貨物チャーター便の定期就航に向けた支援
- ・ 新規路線誘致、集貨、PR活動の強化

- ・ 拠点空港につながる貨物便の就航
- ・ アジアへの中・小型貨物便路線の充実
- ・ 緊急・特殊輸送チャーターの運航



結び合う ちから
未来へ 響きあう



北九州市は
平成25年2月10日に
市制50周年を迎えます！

開港120周年記念の
マスコットキャラクター
スナQ
(スナキュー)